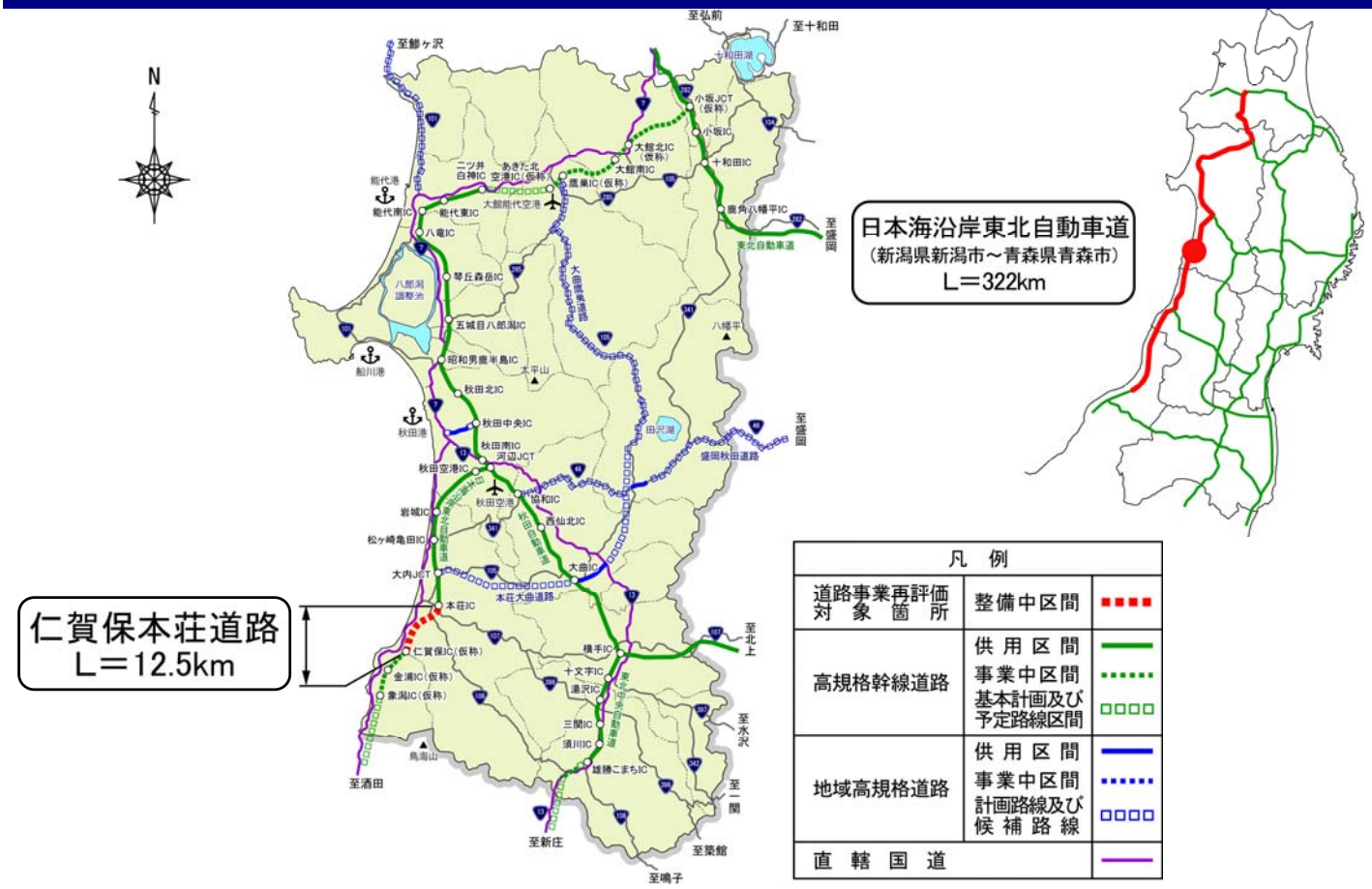
一般国道７号　仁賀保本荘道路（にかほほんじょう）



事　業　実　施　状　況



一般国道７号　仁賀保本荘道路

【評価要件：事業採択後10年経過継続】

〇事業の目的

・東北地方日本海側の広域交流・連携の促進

・主要施設へのアクセス向上（救急医療施設・秋田空港等）

・緊急輸送路の信頼性向上

〇延　　長　：　L＝12.5km

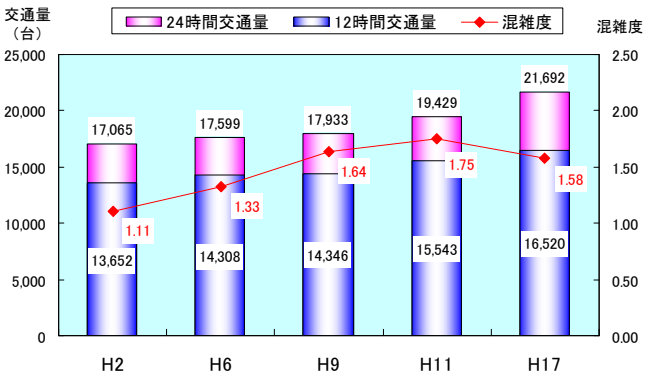
〇事　業　費　：　（完成）588億円　（暫定）406億円

〇事　業　化　：　平成12年度

〇進　捗　率　：　（完成）67%　（暫定）97%

国道７号の道路状況





▲　現道7号の交通量および混雑度の推移

資料：国土交通省「道路交通センサス（H2～H17）」
観測地点：由利本荘市西目町沼田字新道下115（No. 1006）



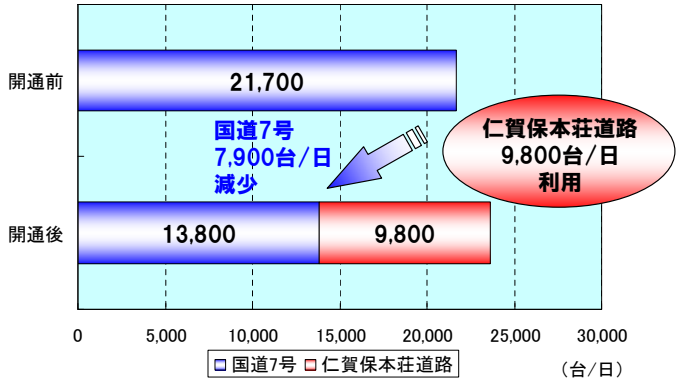
▲　にかほ市両前寺の渋滞状況（開通前：由利本荘方向を望む）

部 分 供 用 の 効 果

・主要渋滞ポイント（水林交差点、西目出戸交差点）の渋滞が解消した。

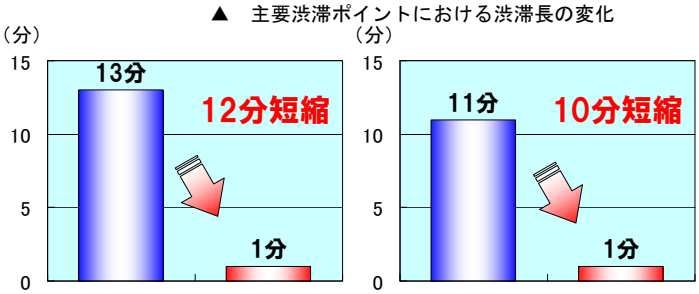


▲ 主要渋滞ポイントにおける渋滞長の変化



▲ 開通前後の国道7号および仁賀保本荘道路の交通量

※開通前：H17道路交通センサス、開通後：平成19年10月17日



▲ 水林交差点通過時間の変化

▲ 西目出戸交差点通過時間の変化

※開通前：平成18年11月21日、開通後：平成19年10月23日





▲ 渋滞が解消した水林交差点
（本荘方面より望む）

全線整備の必要性（残区間　L=1.3km）

・残り1.3kmは仁賀保IC（仮）を含め、先線の象潟仁賀保道路も順調に工事が進んでいる。
・全線整備により高規格幹線道路のネットワーク機能強化、主要施設へのアクセス性向上等が図られる。
・主要渋滞ポイントの両前寺交差点も全線整備により渋滞が解消し、円滑な交通流動の確保が図られる。



▲ 日本海沿岸東北自動車道整備状況



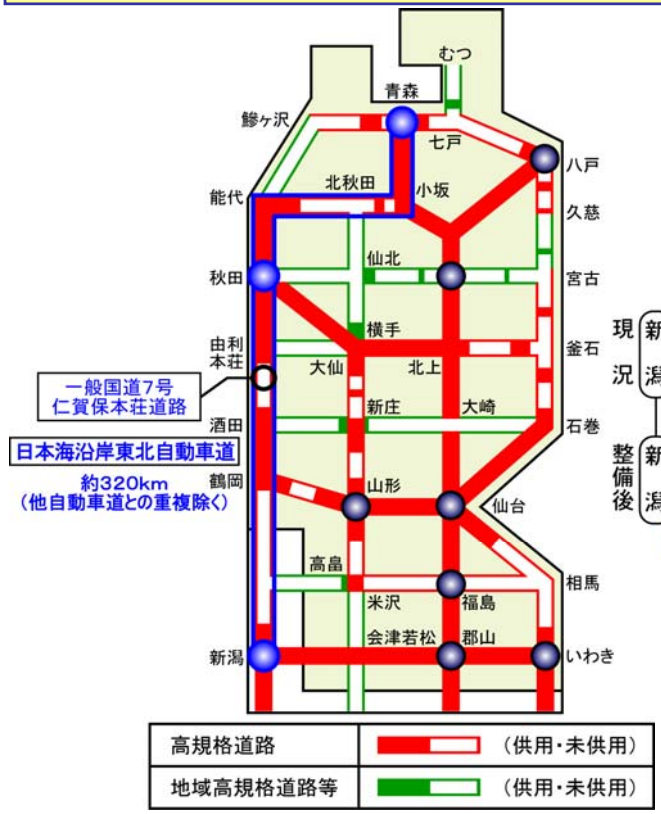
▲ 先線の象潟仁賀保道路の整備状況



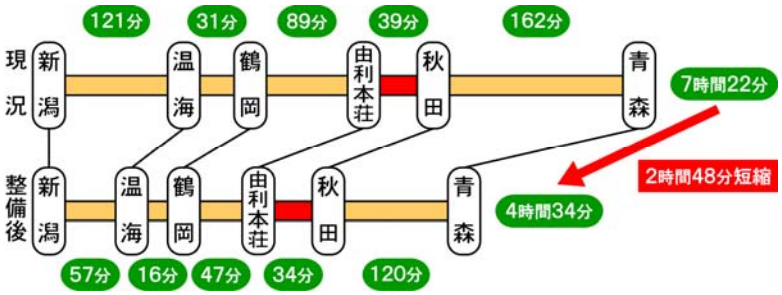
▲ 仁賀保本荘道路の渋滞状況
（両前寺交差点より仁賀保本荘道路を望む）

高規格幹線道路ネットワークの構築

・ネットワーク機能強化および日本海側の交通・連携の促進に寄与する。



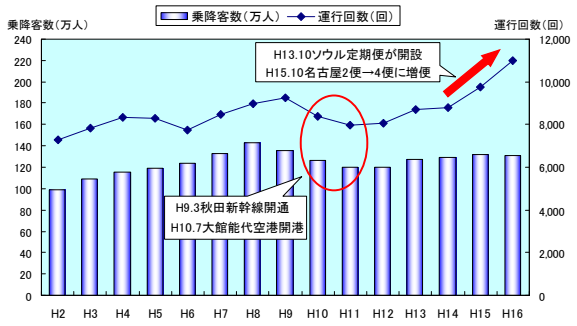
▲ 格子状幹線道路ネットワーク図



▲ 新潟市～青森市間の所要時間の変化

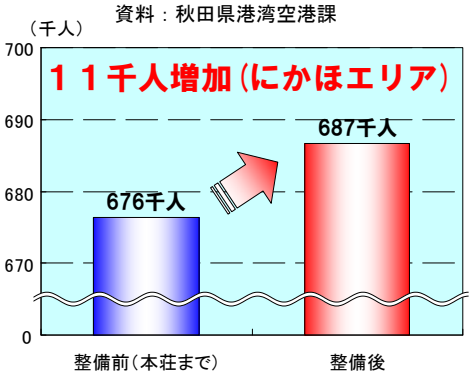
秋田空港へのアクセス向上

・秋田空港までの所要時間が77分から50分に27分短縮する。



▲ 秋田空港の乗降客数の推移

資料：秋田県港湾空港課



▲ 60分圏域カバー人口の変化

資料：総務省統計局「H17国勢調査」

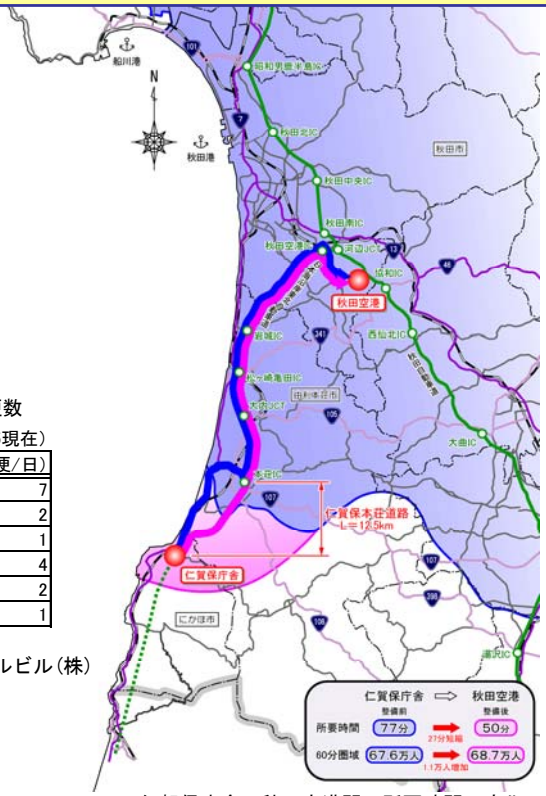
▼ 秋田空港の便数

(H21.5現在)

	便数(便/日)
東京	7
名古屋(小牧)	2
名古屋(中部)	1
大阪(伊丹)	4
札幌(新千歳)	2
ソウル(仁川)※	1

※月・木・土曜日の運行

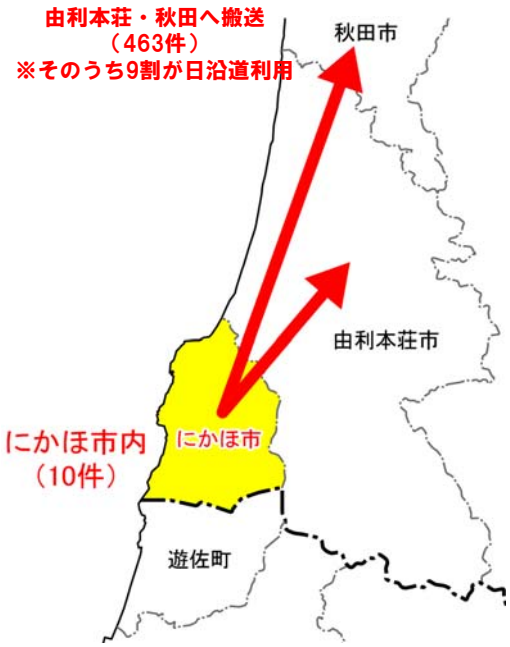
資料：秋田空港ターミナルビル(株)



▲ 仁賀保庁舎～秋田空港間の所要時間の変化
秋田空港60分圏域人口の変化

高次医療施設へのアクセス性の向上と医療圏の拡大

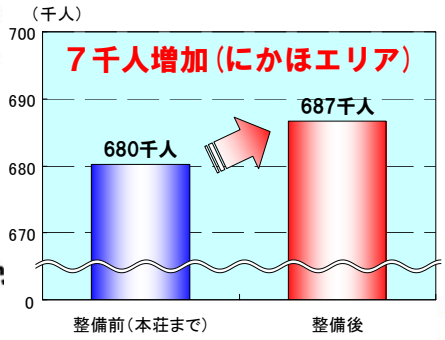
・秋田赤十字病院までの所要時間が84分から57分に27分短縮する。



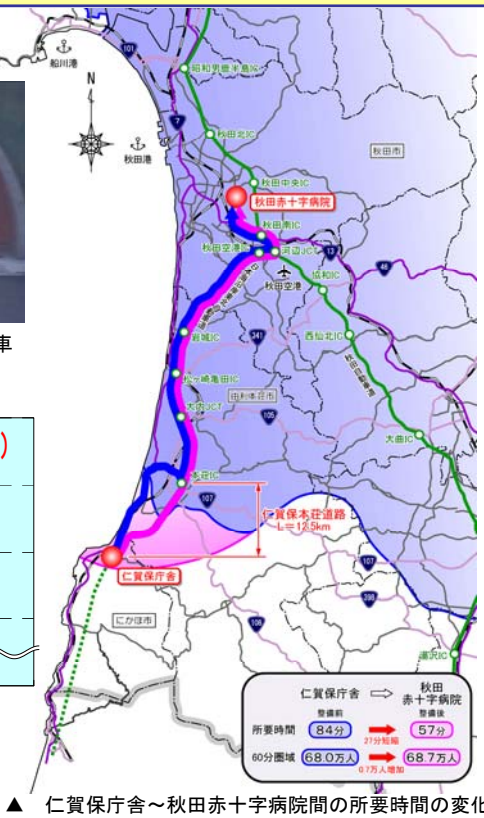
▲　にかほ市の搬送状況
（H19.9.17～H20.3.16）
資料：にかほ市消防本部ヒアリング結果



▲　西目トンネル付近を通過中の救急車



▲　60分圏域人口の変化
資料：総務省統計局「H17国勢調査」



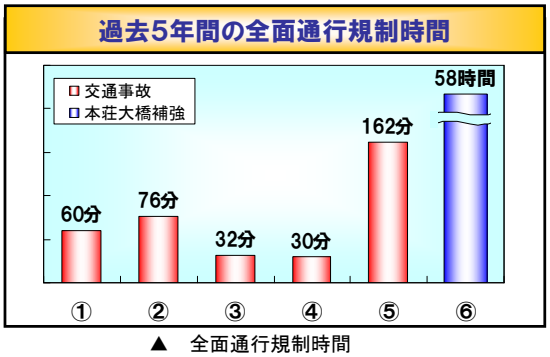
▲　仁賀保庁舎～秋田赤十字病院間の所要時間の変化
秋田赤十字病院60分圏域人口の変化

リダンダンシーの確保

・地域生活を支えるリダンダンシーの確保が期待できる。



▲　通行止め時の迂回ルート



▲　全面通行規制時間
資料：秋田河川国道事務所「通行規制データ（H16～H20）」



▲　交通事故通行規制状況（西目）



▲　本荘大橋の通行規制状況

地元企業等の声
・大幅な迂回や運行の取り止めを強いられていたが、解消した。
・状況に応じてフレキシブルな経路選択が可能になった。

広域物流の効率化

・所要時間の短縮により、広域物流の効率化が期待できる。

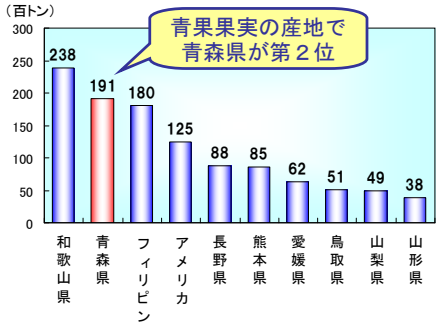


▲ 高規格幹線道路および主要港湾

▲ 酒田港へ搬入された貨物の出発地
資料：国土交通省「H16港湾統計」



▲ 青森から大阪までの経路比較の一例
資料：NEXCO「ドラぷら」、道路ポケットブックとうほく2006



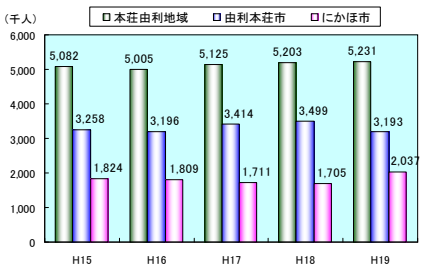
▲ 大阪市中央卸売市場（本場）の入荷品産出地
資料：大阪市中央卸売市場「市場の統計」

観光地へのアクセス向上

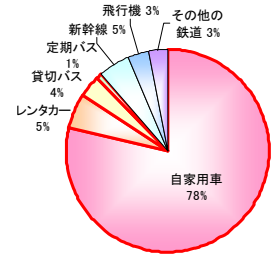
・主要観光地へのアクセス向上と山形方面との広域観光ルートの確立が期待できる。



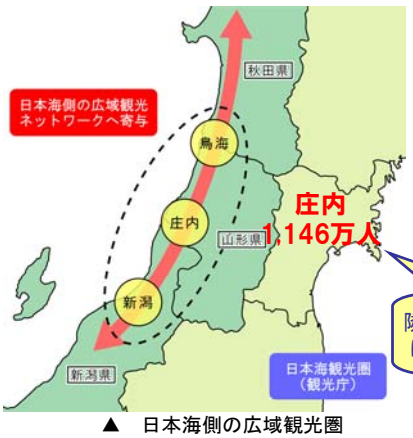
▲ 本荘由利地区の主な観光拠点



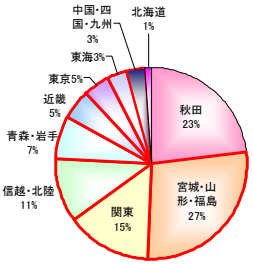
▲ 本荘由利地域の観光客入込数推移
資料：秋田県観光課「H19観光統計」



▲ 鳥海への入込客の利用交通機関



▲ 日本海側の広域観光圏



▲ 鳥海への入込客の地域別内訳
資料：秋田県観光課「H19観光統計」

事　業　の　投　資　効　果

○費用便益比（B/C）

※下表の数値は、基準年（平成21年度）における現在価値に換算した金額を記載

【残事業】

費用C（現在価値）	***172億円***
便益B（現在価値）	***387億円***
費用便益比　B／C	***2.2***

【全　線】***費用便益比　B／C***　　***2.1***

計画交通量（平成42年度）

・仁賀保本荘道路＝19,500台/日

・現　　道＝　8,000台/日

供用予定等今後の事業の見通し

・国号7号合流部～（仮称）仁賀保IC（L=1.3km）については、平成20年代中頃の全線暫定供用を目標に事業推進を図る。



対　応　方　針　（　原　案　）

○早期整備の必要性が高い。
・東北地方日本海側の広域交流・連携の促進
・主要施設へのアクセス向上（救急医療施設・秋田空港等）
・緊急輸送路の信頼性向上

○地元自治体等からの事業促進の要望がある。

⇩

事業を継続実施